

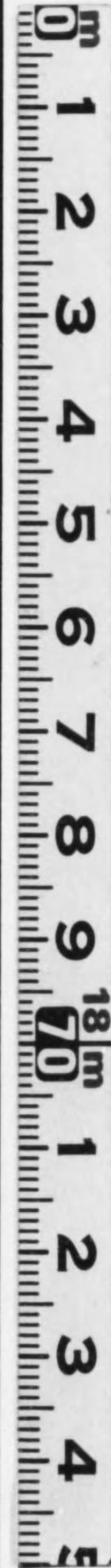
特 250

857

昭和十二年度防空演習

訪 問 分 團 概 況

工 場 防 護 團 本 部



始



250
857



昭和十二年度防空演習

訪問分團概況

目次



緒言.....一

一、工場防護團の精神.....二

二、豫行演習.....三

三、指導の變遷.....四

四、各機關との協調.....五

五、分團の幹部.....六

六、訪問分團の實況.....九

- (一) 芦田工業所
- (二) 日本ベイント株式會社
- (三) 精版印刷株式會社
- (四) 角一ゴム株式會社
- (五) 金貨メリヤス工場
- (六) 美津濃運動具用品工場



- (七) 本庄亞鉛工業所
- (九) 榎本鑄造所
- (十一) 大阪晒粉會社工場
- (十三) 東洋紡績四貫島工場
- (十五) 芦森製鋼所
- (十七) 松下無線十三工場
- (十九) 竹本電氣計器製作所
- (二十一) 關西スピンドル製作所
- (二十三) 日本油脂佃工場
- (二十五) 大同電力安治川發電所
- (二十七) 大阪瓦斯舍密工場
- (二十九) 大阪鐵板製造工場
- (三十一) 汽車製造會社工場
- (三十三) 東洋紡績西成工場
- (三十五) ラサ工業大阪工場
- (八) 浪速製紙會社工場
- (十) 聯合紙器淀川工場
- (十二) 日本染料會社工場
- (十四) 永井メリヤス工場
- (十六) 大阪變壓器製造會社
- (十八) 天辻鋼球製造所
- (二十) グリコ株式會社
- (二十二) 日本ノート學用品株式會社
- (二十四) 大阪製煉會社
- (二六) 大阪製鎖造機工場
- (二八) 東洋木材防腐工場
- (三十) 住友金屬工業製鋼所
- (三二) 日本石油安治川油槽所
- (三四) 日本亞鉛鍍工場
- (三六) 共和レザー工場

- (三七) 日本アルミニウム工場
- (三九) 前川齒切工場
- (四一) 塩野義製藥工場
- (四三) 野里工作所
- (四五) 丸松メリヤス工場
- (三八) 關西漂白工場
- (四十) 三陸珙瑯工場
- (四二) 島田硝子工場
- (四四) 大日本製藥工場

結 言..... 五

附 録

- 昭和十二年度工場防護團防空演習實施に關する所見(指導將校)..... 五
- 昭和十二年度工場防護團防空演習實施所見(島野大佐)..... 六

昭和十二年度防空演習

訪問分團概況

工場防護團本部
常務理事 事

角野久造

緒言

我等の阪神防空演習に参加したのは、今度で四回である。其間工場に於ける特殊防空施設に付て、年中不斷の工作を續け、演習の實績に對して、施設の完備と防空常識の普及とに付て、過去を顧みつゝ進歩を測定し來つた。本年度の演習は、施設三年計劃の最終年度であり、大演習を明年度に控へての準備演習とも心得て、努力したのである。

一年を通じての支部懇談會に於て、防衛司令部主任參謀と共に、演習に對する認識の向上に勉めて來たが、果してどれだけの実績が得られるかは、各分團個々に付て實見するの外はない。夫れ故に、司令部から派遣された指導將校と共に、成るべく多數の分團を訪問

して、視察し報告することにして居る。

恒例によつて、こゝに筆者が實見せる分團の參加状態と所感とを録して、次年度の参考とすると共に、視察所得の諸事項は今後の支部懇談會に於ける、攻究の資料に供したいと思ふ。

本年度の演習は、從來に比し長期であつたこと、時期が阪神に於ける高温度の暑中であつたこと等は、従業員に於て相當な苦痛であり、それだけ多く努力を要したのは事實であるが、時は偶然にも北支事變による動員下令の爲めに、應召者の出發見送りと、戦況號外頻發の爲め、全般の氣分を緊張させたことは、演習に對する効果的の刺戟であつた。

一、工場防護團の精神

非常時の聲に結成された工場防護團も、爾來四年、馴れては非常時の觀念も薄らがんとして居たが、北支の戦鬨と動員の下令とで、世間は非常時が尙繼續して居ることを、再認

識したやうだ。

我等は、第一回の防空演習では、只管防空技術の概念の注入に努力し、演習後に於ては非常時の心構、即ち日本精神の作興に努力せんとした。だが防空演習の技術的方面の検討が本團の主務で、精神的訓練は第二義的であるかの如く解釋され來つた。爾來我等はこの大勢に押され勝であつた。

併し乍ら、既に四回の演習を重ねて、何人も工場防空の訓練は、技術が従で精神が主であらねばならぬことを痛感されたであらう。地方防護團員の訓練が、一轉して家庭防空を標語とするに至つたのも、要は國民の精神作興である。是れと同様に防護委員の演習訓練が、結局工場全員の防空概念涵養にあるとするならば、家庭防空と同様に、工場全員の精神作興に重點をおかねばならない。是に於て、從來兎角押され氣味であつた工場分團の精神的作興と訓練とを、適當の機會に於て取り戻す必要があると思はれる。

二、豫行演習

私達は斯道奨励の意味で、一般豫行演習の外に、施設も完備し且熱意ある工場を選抜して、模範演習をも試みて來た。是が目的は、不熟練、施設不十分の分團に對する、指導と刺戟の意味であつたが、開放を好まぬ分團が多い爲、已むを得ず漸減の方針をとつた事は遺憾である。併し、考へやうでは、最早從來の如き模範演習位では効果が薄くなつた程に、全分團の認識が高まつて來た爲、更に一層適切効果的な、新しい演習訓練を必要とするに至つたとも思はれる。

三、指導の變遷

防空精神の指導は、前述の通り是迄餘り振はなかつたが、之に反して技術的の指導訓練は、各分團の鋭意洗練によつて、頗る優秀な分團も現はるゝに至つた。だが遺憾とする處

は、指導の方法に、毎年若干の相違が生ずることである。斯道の専門家の言を聞くに、我國防中最も後れて居る防空は、其手段方法に於て、年々若干の相違の生ずるのは致し方がない、要するに、完成途上にあるのだから、指導方法の改變も亦進歩の結果に外ならないと云はれる。事實はそれに違はないとしても、一般民衆の不安の氣分を打消す爲に何か格段の工夫が必要であらう。例へば、焼夷彈に對する處置、觀念の如き、最も著しい適例と云へやう。夫れ故に本年は特に大阪工廠の好意により、變法の實驗を示して、認識を確かならしむるに勉めた。此機會に於て工廠關係各位に紙上乍ら深く謝意を表する。今後と雖も色々の變化があるかもしれないが、成るべく其都度實驗を公開したいと思ふ。尙もう一つ困るのは、

空軍に對する智識研究が新らしい爲めか、陸、海軍の説明に相違があるのみならず、演習を実施する陸軍の内に於てさへも、人々によつて往々異説を耳にすることである。私達は聞き馴れて居る爲に、餘りに偏信しないとしても、指導される分團が人によりて異つた

説明を聞けば、迷ふのは當然と考へる。防衛司令部の官制が嚴存する限り、是等を成るべく統一して貰ひたい。

四、各機關との協調

茲に機關と云ふのは、各官廳の機關を意味する。阪神の如き大都市では、内務行政の長官が統監となつても、他省との限界を踏越へ難い以上、そこに色々の難問題の發生は豫想さるゝが、國民大衆が種々の犠牲を忍んで、欣然參加する防空演習に於ては、各官廳機關でも、軍、官、民一致の心構へを自ら模範的に國民に示すことを心掛けて貰ひたい。各獨立の權限を固守することは、官廳としては重大任務ではあらうが、廣い目で見ると國民からは、國家全體、綜合的活動を希望するのである。官廳としては、元より打合せによる協定了解濟の範圍ではあらうが、實戰氣分を演習によつて、濃厚に現はさんとするものに於ては、著しく意氣を抹消せしむる虞れがある。例へば

海上船舶の燈火管制の如き、陸から見れば船が並び重さなつて見へる爲めに、管制の氣分が受取られなかつた。不斷の出入と危險防止の爲に、是以上出來ないと云へばそれ迄だが、實戰に際しても矢張り斯様な程度だとすれば、都市防衛を棒に振らねばならぬ事となる。遞信大臣の肚が承りたくなる。モウ一つの實例は、

櫻島驛の大信號燈の電光であつた。是も勿論例外了解のものではあらうが、この信號燈のみを眺めたら、鐵道は演習に参加して居ない感じがする。燈火管制の完璧を期して、特別施設の豫算を計上したらどうであらう、技術的可否は分らないが、實戰に於て重要任務のある鐵道が、自ら空襲の目標を高く、且明瞭に表示して居ることは、國民として著しく不安を感じる、何とか特別の工夫が有つてほしい。單に演習氣分を殺滅する意味ばかりではない。

五、分團の幹部

分團長は重役又は工場長であつてほしいのは理想であるが、それは責任者が最上級の人であつたならば、統制は無論のこと、施設に於ても完全を得られ易からうと云ふ見地と、且、工場が危険に曝された時、社長又は工場長は必ずや現場に出動されて、勞資一體のものと防護の處置をとらねばなるまい、と云ふ想像から出たのである。この理想が名實共に現はされて居る分團は結構だが、間違つて不在分團長を頂く分團も相當にある。名ばかり分團長で演習に参加せず、副分團長一任のもあり、或は分團長が工場長以下であつて、夜間は工場長も居らない分團もある。古稀前後の社長分團長に對して、夜間の出勤や、現場の指揮命令を望むのは無理であらうから、名實必適の構成を希望したい。併し乍ら、工場は會社の重要部分であるから、施設に關する限り代表重役が責任を以て遺憾なきを期して貰ひたい。

工場と關聯して考へ出さるゝのは、會社の主體が工場と別々の場合、即ち市内に於ける本社が、どの程度迄地方防護團と協同動作をして居るであらうか。恐らく消燈して平素同

様の宿直員によりて、放置されて居るのではなからうか。會社街の地方分團はどうして居るだらう。而して是れが眞の空襲であつたならば、本社幹部はどうするのであらうか、地方分團の實狀を知らない私達には、色々の疑問が生じて来る。これは畢竟本社の空氣が相當に工場にも反映するが故に、こゝ迄考へ出されて來るのである。

六、訪問分團の實況

一、芦田工業所 (西淀川區大仁西一)

水道メーター、電機計器の製造工場であつて、平常も夜間作業はやらないのではあるが、二棟の工場には窓及各電球に、夫々隱蔽の黒幕と遮光のカバーが設けられてあつた、演習氣分は昨年と同じ様に見受けられた。演習参加男工八十名と稱されて居る。

二、日本ペイント株式會社 (西淀川區浦江北四)

本年度は防護員の組織を變更して参加人員五十八名に減少したが、燈火管制設置工場は四棟であつた。問題の亞鉛華製造の爐は相當に注意深く考慮され、爐の火口は鐵板にて遮光をして、其上、屋根裡に面する方を鐵板の戸にて蔽ひ、且開閉さるゝ仕組である。夜間視察の機会を得なかつたが、大抵大丈夫と思はれた。醫務室、防毒室等例年の通り夫々設けられてあつた。訓練も一通り行渡つて居る。

三、精版印刷株式會社（西淀川區海老江上四）

仕事が強力なアーク燈を使用する上に、工場は彩光のガラス屋根であるから、作業を完全にするには、相當の施設が必要であるが、見た所凡て一時的の間に合せ材料で、已むを得ず演習参加の気分が見へる。日限注文の關係上、二棟の夜間作業を行ふが、元より防空演習に邪魔とならぬ程度の様に見受けられた。ガラス屋根は厚い紙を外部から敷かれ、所々に風押へをする程度であつた。若しも風雨があつたら忽ち吹き飛ばされ、夜間作業中止

の外はあるまい。工場内電燈各個の管制も一樣であつて、工夫されて居ない、これでは防空演習を十分に理解されたとは思はれない。分團長は、取締役兼務の工場長ださうだが、下僚任かせて非常時の防空演習を認識されて居ない様であつた。

斯社の仕事は專賣局、新聞社、其他有力方面からの注文であるだけに、施設に關し相當注意を喚起する必要があると思はれた。

四、角一ゴム株式會社（西淀川區浦江中二）

關西に於ける斯界の老舗だけに、事業も盛大、敷地七千坪を有する大工場だが、建物は相當に古い。演習参加人員は男九三、女七名、豫行演習の科目は、重要個所の破壊（復舊工事）、焼夷彈の落下、避難救護であつたが、本部からは立會つて居ない。甲乙二班に分つて交代制をとつて居る。工場ではこの機会に緊急防護心得を頒布して、平時の訓練にも充當させて居た。

夜間作業を行ふ工場三棟に付て、燈火管制施設を見たが、電燈は悉く黒布の遮光、天窓は藁藁で蔽はれてあつた。何分にも工場が相當に年代を経て居る爲、この程度の外致し方あるまいが、非常管制の場合、温度の上昇が案じられる。

五、金貨メリヤス工場 (西淀川區浦江上二)

こゝは縫工、仕上、及荷造の三棟に區別されるが、夜間作業は縫工場のみであつた。縫工場の燈火管制は、斜窓も側窓も綿布にて恒久的施設であり、各燈も適當に遮光され、夜間作業のない仕上、荷造兩工場とも、ターポリンを以て一時的の設備がされてある。

豫行演習も所轄警察署員の立會の下に行はれたさうであつた。

六、美津濃運動具用品工場 (西淀川區浦江本通二)

男九十二名、女四百八名を使用し、ミシン裁縫の工場である。筆者訪問の時は、退場時刻であつた爲、多數女工出門に際し、混雜して居たのと、夜業をせぬ爲、燈火管制は一切

しなかつたとの事だつたから、内部の査閲をやめた、別に寄宿舎があり二十二名を收容し得るさうだ。

豫行演習は防毒と避難に付て施行されたさうである。人口稠密の地域に於て斯種の木造工場に多數の女工達を集めて居る工場では、少數の男子を最もよく利用された、防火と避難訓練が最も必要であらう。演習終了後も引續き研究すべきものと考へる。

同社では自衛上毎月最終の土曜日を期して防火班の訓練を年中續行するさうで、相當に熟練されたと思はれるが、實見の機を得なかつた事は残念であつた。

七、本庄亞鉛工業所 (此花區吉野町二)

狭い工場ではあるが、晝夜兼行の作業であるだけ、相當の緊張振を示して居つた。豫行演習も三回、岡本少佐指導のもとに、防火防毒及燈火管制に付て施行したさうである。場内の作業は單純ではあるが、爐の作業である事が厄介である。工場でも特に火焰に付て注

意して居る様子で、夫々掩蔽も設けられては居るが、見た處完全ではない、其上密閉すれば忽ち高温度に苦しめられる惧がある。爐へ原料を投入する作業を、實演して説明されたが、噴出する火光は、この掩蔽では不十分であることを立證するに過ぎない。だが作業中空襲警報があつた場合の處置は、忽ち作業を中止し、火口を泥にて目塗をする、それにて問題は済むのだが、機械力を用ひぬ人工勞働であるだけ、至極簡單敏捷に行はるゝことは、實演によりて了解された。非常管制が一時間位ならば、この程度にて先づ間違はないものと思はれた。

八、浪速製紙會社工場（此花區大開町三）

この分團の構成は、男子八十七名の防護擔當者を、二分して交替制をとつて居る。豫行演習には指導將校は臨席して居なかつたそうだが、一回實施されたさうだ。

非常管制施設は、工場内二〇〇Wの電燈七百個に對しては、電壓を落さず、重要個所の

みを遮光し、その他は凡て消燈して居る。従つて夜間空襲時の操業は相當不自由であらうと思はれた。作業の性質が温度高く、温度も相當に高い爲、屋内點燈して、窓、出入口等を隠蔽することは、殆んど不可能であらう。

遮光材料は、凡て厚ハトロン紙を用ひてあるが、薄い木綿よりも遙かに有効であつた。

工場限なく案内され、作業の現状に付て詳細な説明と、管制の苦心を語られた。團員の訓練程度も實見したかつたが、時間がない爲め割愛した。

九、榎本鑄造所（此花區大開町三）

工場敷地二千坪に建坪四百坪を有する鑄物工場である。時節柄仕事は多忙であらうが、筆者訪問の時は夜の八時頃で、作業終了後であつた。大小二個の爐を有するが、防空演習中に限り操業をくりかへて晝夜を轉換した。是では重工業として、任務を盡くせないことになるから、目下新たに二本の爐の増設計画中ださうで、是れが完成すれば演習中でも晝

夜作業が續行され得るとの話であつた。爐の遮光隠蔽に關しては、別に研究もないやうだつたが、増設の分は是も併せて設計して貰ひたいものである。

従業員二百名中から防護擔當員六十名を選抜し、別に青年學校を設けて、七十名を教育して居るが、晝間は六時半で終業するから、夜間は班員と夜警とを併せて十二名を止めて居ると、分團長の話であつた。

十、聯合紙器淀川工場（此花區大開町四）

常務取締役が分團長として演習に参加して居たが、生憎分團長も共に不在であつた。百二十名の擔當班員を晝夜交替制として、完全に夜間操業をやつて居る。

燈火管制は厚手の紙を以て側窓全部を隠蔽し漏光なく完全である。工場の入口は空襲の際は戸を鎖して隠蔽するのだが、工場内の温度は相當に上昇する、作業の性質が相當に多數の照明を要する爲、各燈毎に黒布を以て遮光し、窓は厚紙と黒布とで隠蔽されて居る、

電燈カバーは厚紙の方が一層有効である。斯くも注意を拂はれた管制ではあるが、警戒管制時は、温度上昇の爲めに入口を開かねばならず、工場内の照明が製品に反射すること、工場自體も天井高く四壁が白色で明るい爲めに、室内の全反射が一方の大入口から相當強く屋外に放散されて来る。温度の上昇を防ぐ意味で、非常管制中でも入口を開放すること而してこの開放された入口から、室内の反射光線の出ぬ様に施設されたら完璧と思ふ。入口隠蔽は他に實例もあるが、成るべくならば工場自體に於て研究の上適切に施設されん事を望む。

十一、大阪晒粉會社工場（此花區上島町九）

闇の道を門前にたどり付けば、洪水かと思はれ位の浸水、工場内を巡つて裡の河端に出れば、水は満々として河岸を超んばかり、工場の人達は一向に驚かず、風水害異變以來此地方は、満潮時はいつもこの通りださうである。なる程一部の護岸改築位では治まるもの

でなうらし。

化學工場であるから晝夜業を平素の通り操業されて居るが、管制が過ぎて事務所も工場も眞暗であつた。夫れ故施設等も十分に見られなかつたが、鉛室と爐の作業であるから、要所の點燈は自衛上必要であらう。爐も河に面した方にある爲、漏光したら水面にも反射されやうが、遮光されて居たからその心配はないとしても、室内の温度は相當に高まるだらうと思はれた。だが作業の性質上、一時的苦痛を忍べば要領よくやれる様である。要するに斯様な相當古い工場では、分團長が防空演習に對する認識を高めれば、適當なる便宜應急の處置が出来る、其方が費用も少く、作業にも大した妨とならずに、演習が遂行される。只素人の第三者からは管制過重と云ふのだが、工場に不便と能率の低下がなくば是れでも結構である。

要之、屋外燈は全部消燈、屋内燈は最少限度に減じ、一々遮光し、其他は消燈、而して電壓をも低下されてあつた。

豫行演習も防火と防毒とに付て各一回實演されて居る。

十二、日本染料會社工場（此花區春日町）

當社の如く時局の認識深く、防空演習の精神を理解し、名實共に獨立して非常時に善處せんとする熱意は、只管感謝する處である、演習を重ねること既に四回、斯種の模範に近き工場は、斯道の研究資料の爲めに訪問するに過ぎないのだが、一般諸大工場への参考として實施の如何に眞面目であるかを概述する。

分團として特別防護隊を編成する外に、特に南北兩部に分つた日染防火隊を設け、司令以下五十三名を以て組織される。而して西島工場には更に防火班が設けられて居る。燈火の管制に關する遮光隱蔽とも完備するのみならず、作業能率の低下防止に對しても、年々相當の苦心が拂はれて居る。演習毎に私達の注意を待つ迄もなく、工場自體に於て高熱防止等に付て格段の研究が續けられ、年と共に進歩のフト歴然たるを見るは、最も吹聴に値

する處である。昨年度は汽罐室の換氣方法が改良され、本年度に於ては配電室の換氣ファンが装置され、更にファンよりの漏光を防ぐ爲めに、特殊のカバーが工夫されてあつた。考案者自身が内容を説明され、しかも特設費の極めて低廉なるを説かれた時、感謝の念禁する能はざるものがあつた。場内百五十個所のファンに、凡て同一に装置されてある。工場の清潔と整備は、他にも比肩するものもあるが、積極的に演習に参加され、最も經濟的な施設が工夫され、しかも見苦しい一夜細工的でない所の精神を、一般に推奨せんとするのである。

同社門外不出の業務書を、こゝに無斷發表するは、心咎むる譯ではあるが、一般への参考として左に掲げやう。

第五十五條 各係工場に於ては何時戰時又は非常時に遭遇するも防護上不都合なき様平素克く注意し、尙進んで防護上の研究を遂げ將來一層有効適切なる施設をなし得る様心掛くべし。

この精神あつてこそ、年々の施設に改良進歩が現はれて來るのである。是は獨り同社のみならず、全國の工場防護觀念とすべきものと信ずる。

尙同社の豫行演習に於ける毒瓦斯處置に付て、本年度は特に新機軸を出されたことを左に概述する。

毒瓦斯に種類の多いことは何人も知る、それ故に瓦斯演習に際し、誰にも起る疑問は、瓦斯の鑑定法と應急對策の適否如何である。從來準備教育講演に於ても、各瓦斯に付て詳述する人もなく、單に一時性と持久性との差別に過ぎなかつた。それ故に、素人としては實際の場合に處する上に少しも信念を持たず、晒粉散布の形式的訓練に終つて居る。

この疑問が日染の當局にも生じたが、化學班長の研究によつて本年度より解決されたことになつて居る。要旨は、消石灰、亞硫酸曹達、次亞硫酸の適切なる配合によつて、如何なる毒瓦斯をも分解作用を起して、毒氣忽ち消散すると云ふ應急適劑の使用である。本劑は價低廉で、瓦斯鑑定が必要がなくなるのであるから、國防上有益なる發見と思はれる。

筆者は素人であるが故に断定は出来ないが、如斯國家的發見は防衛司令部に於ても、本劑を検討して他に適劑なき限り、一般的に推奨すべきものであらう。

十三、東洋紡績四貫島工場（此花區四貫島大通）

同工場を訪問した時は夜の十時半を過ぎて居つた爲め、事務所は既に退出、十一時を以て終る夜業状態を漸くにして見ることを得た。

當夜の残業は撚糸工場一棟であつた。屋外燈は凡て消燈、廊下通路は管制電球によつて照明され、夜業工場の側窓と採光窓は凡て黒布を以て隠蔽されて、完全に管制は行届いて居る。だが問題は換氣裝置が工夫されて居ない爲、室内の温度上昇は相當に烈しく、従業員の上にも大分疲勞の色が見へて居た。寒暖計は見なかつたが、説明では三十五度さうで、平常時に比して二度の高温である。冷房裝置か換氣設備が是非工夫されねばなるない。前年度に比して改良進歩の見るべきものがなかつた。好況時の大工場としては、特に

上層部の關心を切望する。

豫行演習二回、主として燈火管制と避難に付て行はれたさうである。苦熱の夜業も終了に近かつた爲、其他の施設は見なかつた。

十四、永井メリヤス工場（東淀川區十三西之町）

莫大小工場としては相當整頓された工場であつた。男工三十三名を以て防護班を組織され、夜業はやらないが、燈火管制の施設と工夫は相當に行届いて居た。縫工部の管制を見るに、光源を遮光した上に、電燈の上下動を自由にして、非常管制時の側窓よりの漏光を防いで居る。機械の照明も各臺の要所に管制電球が裝置されて、其他の部分が全部消燈されても操業の完璧を期待されて居る。明るい工場ではあるが、夜業の場合でも恐らく差支はないと思はれた。無理な隠蔽がない爲換氣通風も良好である。

豫行演習はやらなかつたさうだが、爆彈、毒瓦斯、避難處置の想定のもとに、本演習を

實施したさうである。

十五、芦森製鋼所（東淀川區元今里北通一）

近代建築様式の明朗で清潔な工場である。屋根の彩光も梁下の照明も、専ら百パーセントの明さを期待して建築されてあるだけ、北窓の隠蔽は最も困難なるものゝ一つである。幸にして晝間作業のみであるから、夏の演習ならば差支ないが、若しも夜業を行ふとすれば相當苦心を要すると思ふ。晝間の防護擔當者約五十名を以て當らしめ、夜間は當直と傳令員を止め、其他は構内の社宅に待機せしむるのである。本工場の従業員は寄宿舎と社宅とに大部分を收容して居る爲、休業時に於ける非常召集も迅速容易であらう。

豫行演習は主として焼夷彈落下に付て、岡本少佐指導の下に行はれたさうである。尙本年度の新施設としては、瓦斯彈に對する消毒劑用の特殊の散布車が考案されて備へ付けてあつた。

演習實施計劃は左の通りである。

- 二十六日(晝) 原動部前に焼夷彈落下。(夜)寄宿舎玄關に焼夷彈落下。
- 二十七日(晝) 鐵工部北入口へ瓦斯彈落下。(夜)二號社宅前に焼夷彈落下。
- 二十八日(晝) 荷造場に焼夷彈落下。(夜)一號社宅前に焼夷彈落下。
- 二十九日(晝) 事務所玄關前に焼夷彈落下。(夜)一號社宅前に焼夷彈落下。
- 三十日(晝) 炊事場に焼夷彈落下。

社宅各戸にバケツ二個に水の用意をなさしめ置く等、焼夷彈に對する警戒は相當周到であつた。

尙演習には無關係だが、同社では創立當時の老廢せる原動機を紀念として一室に飾り、以て過去の思出を永久に傳へ、昔を忘れざらんとする精神を表はして居ることは、深く敬意を表するに足るものがある。

十六、大阪變壓器製造會社（東淀川區元今里北通三）

夜業なき工場として、燈火管制施設の見るべきものがない。唯電燈に完全にカバーをなし、遮光せる程度に過ぎない。乍併側窓其他の遮蔽をせぬ代りに、至極簡單なる設備にて工場内部の電球の電壓を、全面的に低下し迅速に管制の目的を達し得らるゝ様用意されてあつた。警報施設としては、工場内要所毎に九個のスピーカーを取付け、ラヂオの警報を迅速完全に現場の従業員に傳へらるゝ様考案されてあつた。前述の電壓低下装置と共に他工場にも参考に供せるべきものと思ふ。

夜業なき工場としては、相當各般に注意されてあつた。

十七、松下無線十三工場（東淀川區元今里北通三）

晝間作業のみのラヂオ工場で、従業員二百五十名の内三分の一は女子である。工場には管制の設備なく、事務所のみ遮光されてあつた。豫行演習は一回行つた由見るべきものはな

かつた。

十八、天辻鋼球製造所（東淀川區元今里北通五）

晝夜各二十三名宛の防護班員を以て演習に参加して居つた。夜間作業は主として重油爐に重點がおかれてあつたやうである。工場は管制球を使用し、事務所は黒布を以て燈火管制を行つて居る。

豫行演習は二日に亘り、爆彈燒夷彈落下に依る重要部分破壊と、是が復舊工作に付て行はれて居る。

十九、竹本電氣計器製作所（東淀川區田川通六）

建坪一千坪の工場、夜間作業はないが、燈火管制は非常夜業の場合を見越して、全面的に設備されてあつた。即ち側窓は捲上式の黒布を以て、天窗は木枠による紙幕を以て隠蔽され、所主が分團長として自ら陣頭に起つて統制して居つた。参加人員五十名。而して演

習時は特に八時半迄夜業を行ふ由。

豫行演習の想定は、防火、防毒及避難等に付て施行されて居た。

二十、グリコ株式会社 (西淀川區御幣島町)

夜間作業なく、従業者は女子供が大多数にて、男子は百二十名のみである。防護班員は組織されて居るが、施設に付ては特筆すべきものはない。七十名を收容する寄宿舎には、燈火管制の設備をしてあるさうだが、實見しなかつた。

豫行演習は防毒、防火、避難の綜合演習を施行されて居る、指導員は在郷將校に當らしめ、規律は相當なものと推定された。

二十一、關西スピンドル製作所 (西淀川區御幣島町)

晝夜業の工場ださうだが、訪問した午後六時頃は運轉して居なかつたやうである。生憎分團長以下幹部は退出されて不在の爲め、居残りの事務員に説明を求むる外はなかつた。

燈火管制設備は、管制電球を使用して居るが、作業するには實際困難であると説かれたとき、この社長以下各幹部の演習参加の精神が分らなくなつた。唯八釜敷云はれるから、作業が困難でも演習中は犠牲と諦めての管制であるならば、四年間の訓練が無駄になる。昨年は指名されて豫行演習を実施したが、本年は豫行演習さへ行つて居ないさうである。社長は分團長ではあるが、老齢で現場の指揮は出來ず、支配人は副分團長だが一切關係して居らない。實際演習の衝に當るものは技師長だが、不在であると話された。次年度大演習には精神的参加を希望する。

二十二、日本ノート學用品株式会社 (西淀川區浦江南一)

新らしい三班編成の防護班を組織し、晝間は五十名、夜間は三十名を以て當らしむる。夜業しない本工場として、三十名の班員は大業のやうだが、主として寄宿舎の人員を臨時召集によつて編成するから輕便に行はれる。燈火管制設備はないが、幹部が名實共に陣頭

に立ち、説明もよく了解された。

豫行演習は、焼夷彈落下の想定に於て、福島署工場主任の監察のもとに行はれて居る。

二十三、日本油脂佃工場（西淀川區佃町）

舊名は合同油脂、晝夜作業の工場であるだけ燈火管制は相當努力されて居るが、防護精神殊に訓練等に付て如何なものであらうか、實見の機會を與へられないから疑問である。

燈火管制は地方防護團より警告されし爲ださうだが、管制の方法が自衛的に研究されて居らない。材料も凡て一様に黒布を用ゐて居るが、最重要部分との區別がなく、工場の爲めに不利である。研究がない爲めか、防空演習の精神を理解して居ないのか、何れかであらう。豫行演習の管制に付ても、指導されても改良されてなかつたのは、要するに幹部に熱意を缺く爲めでなからうか。

作業の性質上、隠蔽すれば温度の上騰著しきものがあるが、工場自身の爲めにも通風に

付て一段の考案を願ひたい。軍需工場として、次年度大演習には、模範的の施設を切望する。

二十四、大阪製煉會社（西淀川區大野町）

本年度の防護組織は午前、午後及夜間の三班に分ちて、晝夜交替防護に勤務し、分團長は工場長にして實際の指揮統制に當つて居る。

燈火管制は工場、構内、事務所等完備、但し事務所の管制は過度であつた。而して、電壓低下の方法をとらないで、各燈の遮光、消燈或は管制燈使用である爲、相當不便ではなからうか。

隠蔽材料は、出入口は主として蓆、簾ノ子を使用し、側窓はハトロン紙が用ゐられてあつた。

豫行演習は、持久性瓦斯彈並に焼夷彈落下の想定の下に行はれたさうである。

大阪製煉への往返に於て、日本化學肥料工場と特許化學肥料工場を、外部より瞥見した。前者は管制よろしかつたが、後者の管制十分ならず、殊に寄宿舎の二階と門衛の照明が、遮光されずにあつたから、注意して直ちに適當に遮光した。此場合に管制燈をかく用意して居るが、どうも暗過ぎる故だと正直な門衛子の説明だが、會社の指導が不十分な爲でなからうか。

二十五、大同電力安治川發電所（此花區安治川上通二）

當時は火力發電の必要な爲、發電作業を行はず、普通當直四名を十四名に増員して、演習中の夜間警備に當らせて居る。

燈火管制を施設した場所は、唧筒室、配電室、汽罐室及事務所其他で、管制は十分であつた。春日出發電所と同様に、各機械の要部にのみ點燈し、之れを管制するのであるから通風も適度に調節され得られやう。

同所は安治川添の石炭巻揚塔を監視所とし、此處から空の狀況を傳達する様にしたのは最も形勝の位置である。筆者も展望を試みたが、時は夜の九時過ぎ、全市の管制は昨年より良好と思はれた。只川筋の船舶に於て、一、二管制の不十分なものと、築港の船舶の燈火は相當に明かつた様であつた。

豫行演習は防火と防毒とを想定とし實演され、焼夷彈、瓦斯彈落下による復舊工作をも併せ行はれたさうである。

二十六、大阪製鐵造機工場（此花區春日出町上五）

當社を訪問したときは午後十時を過ぎ、夜業も終了後でもあり、工場も昨年視察後と異つた施設がないとの事であつたから、工場内の巡回をやめて、昨年來問題として居る電氣爐の隱蔽施設に付て、其後の研究を問合せた。同社では隱蔽の困難を訴ふる外に、未だ何等の工夫も付かぬ様であつたから、明年度大演習迄に、相互協力して完全を期する事に打

合せた。隠蔽資料に付て同社員は、現在使用のものよりも一層経済的にと、甚だ算盤高い注文があつたが、試みに現在何を使用して居るかを聞くに、天窓は莫産、側窓はボール紙との返答であつた。軍需景氣に乗つた増資擴張の工場として、演習参加の精神が此の様では甚だ困るが、生憎重役、工場長等の責任者は不在であつたから、重要視しては考へなかつた。會社の方針は左様ではなくて、電気爐の隠蔽技術に苦心されて居るのだと考へた。當所には、海軍の技術官が豫行演習を指導され、防毒、防火と是れに關聯する復舊演習を二回舉行したさうである。

班員七十名を以て防護班を組織し、二交替制である。

二十七、大阪瓦斯舍密工場（此花區川岸町一）

今年度演習参加新編成は左の通りである。

舍密工場分團本部、情報蒐集及發着、連絡と通信、食糧配給、車輛配置、防護對策、

非常召集、記録、資材整備、製造作業の統括、其他。

救護防毒班、防毒、避難路場所管理指示、收容及應急手當、罹災者の移送、救護所及

用具の管理。

防備班、警備、防空監視、消火、防水。

工作班、燈火管制、偽裝工作、復舊工作、其他。

演習参加も相當に研究され、各班の活用十分であつたと思はれるから、概要を録する。想定を九項目に分ち、瓦斯彈、燒夷彈落下の下に、各班の連絡演習を行ふのだが、演習の場所は九回とも所を異にされ、本部と防備班の演習は九回、防毒救護班の参加四回、工作班の参加一回である。而して其内五回は工場従業員全部を擧げて、演習参加の氣分を持たせて居ることは、新編成の趣旨を了解された結果と思はれる。

工場内を見るに、遮光、隠蔽共に完全ではあるが、例年問題となるコークス爐の隠蔽が昨年度施設されたものが、本年度は能率低下の由で全部取拂はれ、作業の振りかへによつ

て、夜間入れかへの操作が全廢されて居つた。従つて火焰迸出の惧なく、平穩無事ではあるが、實戦の場合、空襲警報發令に際し、如何なる處置が講ぜらるゝか、後日の研究に殘された。

二十八、東洋木材防腐工場（此花區櫻島町）

敷地一萬二千坪に工場と材料木材とビツチの溶液とを有する當工場が、一班二十五名の最少限度の防護班員を以て完全に警備自衛するには、諸計劃に餘程の注意周到を要する。説明を聞き施設を見るに、工場の特質に適應せる處が多い。而して當工場は夜間作業は行はない。受渡檢量等の爲め餘程の事態が発生せぬ限り、夜間に材料の仕掛作業が出来ない様である。

防空監視所を見るに、事務所の屋上に設け一眸にして、全工場を望まれ、最も優勝の地位にあり、構内各要所に警報傳達の設備がある。而して構内を便宜上、數個の地區に分割

し、一々信號を設けて、警報傳達の輕便と正確とを期してある。

防火應急装置としては、構内の要所十七ヶ所に、砂囊四袋、水一斗入罐四個づゝを配置し、是れに天秤棒二本を添へて、受持個所火災現地への運搬に備ふるの用意周到さを示して居る。實際の場合消火栓よりも、先づ應急手當が肝心であるが故である。

燈火の管制に於ても、工場、事務所、汽罐室、蒸餾工場等に、黒布を以て隠蔽され、屋外燈は全部消燈し通路は軌道によることにして居る。

豫行演習は、防火防毒の想定の下に行はれ、特に防火に付て格別の熱意がこめられた。當會社は防空演習時の外に、常備の消防班を備へ、年五回消防司令の下に、演習訓練を行ひ、月番を設けて消火栓、防火器具の整備點檢を行つて居る。

唯一つ當局の注意研究を喚起したいことは、ビツチ溶液の貯藏池に對する防備が、未だ行はれて居ない事で、用意周到の同社當局は、勿論氣付き居ると察するも、何かの理由で其儘になつて居るのであらうと考へた。

二十九、大阪鐵板製造工場（此花區櫻島町）

こゝは鐵板の亞鉛鍍金をする工場である。仕事は至極簡單ではあるが、晝夜業をする爲燈火管制には年々力を盡くし、本年度も數百圓を投じたさうだが、工場の廣さの割合には目立つて居ない。黒布とシートの外まだ蓆を使用せる部分もあり、高温度の防止も出來て居ないから、尙一層の改良進歩を切望する。

防護班は三班二十四名にて構成され、工場長の分團長の下に行はれた豫行演習は、主として防火に對する處置であつた。

特筆すべきものを見出せなかつた。

三十、住友金屬工業製鋼所（此花區島屋町）

重工業の大工場として、防空演習に關する施設と研究とは既に定評あり、筆者は時間の關係上工場内部を視察せず、一般の演習參加氣分を味つたに過ぎない。

住友の如き大會社ならずとも、重役は名義上の分團長に過ぎないのが、相當に見受けられるが、こゝは名實双備の重役分團長が、演習中は夜に入るも退場せず、設けられたる分團本部に幕僚と共に當直さるゝことは、精神的に工場を引しめ、演習參加の空氣が充満する。殊に本年度は、高射砲を備へて青年學校生徒を訓練して操作に當らしめ、探照燈を備へ機關銃を据へて、大工業自衛の精神と様式とを整備されたことは、昨年度よりも一段の進歩であらう。

工場の隱蔽並に一般の管制施設、其他演習訓練等に付て、年々研究の度を高めつゝあるが、本年は内部視察の時間がなかつたので、乍遺憾この程度に於て止めた。

三十一、汽車製造會社工場（此花區島屋町）

訪問したのは午後八時であつたが、出羽分團長初め幹部揃つて演習に参加、案内されて夜間作業の各工場を視察した。

燈火管制は相當に注意して行はれて居つた。一般の参考として左に概要を掲げやう。

屋外燈は凡て中央管制とし、

警戒管制中は、路面百平方米に付一燭光の割合で、一燈十六燭光以下に減光、且遮光門燈は街路燈と併用し、制限内に於て殘置又は消燈。屋外作業燈は、百平方米二燭光の割合とし、前述一般屋外燈同様に管制、非常管制中は、最も重要な作業燈のみを隠蔽し其他は凡て消燈。

屋内燈の管制は、各個に點滅し得る様、配線の變更を行ひ、右スイッチには、警戒管制中消燈すべきものは青色、非常管制中消燈すべきものは赤色で標示し、一坪十燭光以内、一燈五十燭光以下に減光し、且遮光された。而して作業工場内では、左の如き特殊施設によつて、空襲下に於ける作業能率低下の防止に努めて居る。

一、工場の天井燈、側燈を消燈せるもの、補充として手下燈を使用せしむること。

二、天井走行起重機に對し、特殊設備をなしたること。

三、熔接工場、鑄物工場乾燥爐、火造工場爐入場の遮蔽に關して、特殊の施設をなしたること。

各工場の外に、同社が燈火管制の施設をなした部分は、會議室(分團本部)車輛設計室、電話交換室、庶務課室、作業手掛室、守衛室、診療所、職員食堂であつた。

工場内防護團の演習は、五日間晝夜施行されたさうである。

其他警報傳達の爲めに、工場に擴聲器を備へたこと、瓦斯彈に對する窓及出入口の開閉準備の如き、各般に亘りて注意されてあつた。

吾等は各工場及屋上迄も視察して、爐の隠蔽が、溫度昇騰の爲果して作業に差支なきを得るや否や、相當に疑問を持つたから、明年演習迄に更に研究する様希望した。

三十二、日本石油安治川油槽所 (此花區川岸町一)

こゝは主としてガソリンの倉庫で、荷造と配給が作業の全體である。常時は夜間の作業

を行はず、當直一、傳令三、夜警四、を備へて演習に参加して居る。

施設は何物もなく、仲仕の寄り場と事務所が管制され、附近に従業員の宿泊所があり、即時集合には便利である。

豫行演習は、防毒と防火の想定の下に行はれたさうである。

三十三、東洋紡績西成工場（西淀川區傳法町南三）

先づ夜業の有無を問ふたら有と答へた。何處と聞けば総場と云ふ。そこで現場に案内をもとめた。時は夜の九時過であつた。構内は暗く案内者の顔も分らず、事務所にも若干の人が居たやうだが、懐中電燈を用ゐねば何物も分らない。管制が過ぎて居ると云ふよりも消燈を以て演習に参加して居るのだ。

案内された総場は消燈されて人氣がない。案内者は只今は夜食の爲休憩だと説明する。休憩中工場内全部消燈も妙だと思つたが、では食堂の管制を實見したいと案内を乞ふた。

食堂も亦消燈、外部から堅く鎖され人の氣配がない。案内者にこれはどうした事だと聞くうちに、暗闇から誰か走つて来て、今夜は夜業は休みだと囁いた。狐につまゝれて此處迄來た形だ。演習参加の様子を問糺しても、分團長始め幹部は居らない。話すうちに、こゝは寄宿舍と浴場と醫務室とに隠蔽をして居ると云ふが、寄宿舍や浴場等を見る氣にもなれず、では醫務室へと案内を乞ふた。側窓には黒布の幕が風にあふられ、室内には遮光された電燈が一個照されてある。醫務室らしい装置はあるが、こゝにも人は居らない。説明では寄宿舍がある爲、醫務室は常時も宿直が居り、急に應ずるのださうだが、薬局さへ居らないらしい。結局實際のところは、看護婦が一名宿直するのださうだが、それも今夜はこの邊に見當らなかつた。深く詮索すると馬鹿を見るから中止した。

歸りに演習参加のガリ版一片を渡された。東洋紡の如き一流會社の大工場が、斯様な演習参加態度は社會的にどうであらう。他社や四貫島工場に較べて、こゝは格段の相違である。恐らく工場長に熱心がないものと云ふの外はあるまい。

三十四、日本亞鉛鍍工場（西淀川區傳法町南二）

傳法の狭き道路を狭さんだ鐵線鍍金工場、軍需好況に掉さして晝夜兼行の操業である。工場は狭く古いが、流石に空襲何物ぞの意氣で續行されて居つた。隱蔽は區々ではあるが外部に燈光は漏れないやうに注意してある。演習氣分よりも管制下で能率は下げたくない氣分が見へる、慾を云へば眞劍に演習に参加して貰ひたい。工場内の温度は相當に高まつて居た。

分團長は出征軍人見送の爲不在、詳細に亙つて問ひ糺すことが出来なかつた。

三十五、ラサ工業大阪工場（西淀川區高見町一）

幾萬坪の構内に、大鉛室を中心として配置された幾棟の諸工場に於て、晝夜間斷なく作業が續續されて居る、同社の燈火管制は、流石に用意周到で間然する處はない様である。時刻は最早夜の十時過、折柄雲低く淀川の堤には人影すら見へず、寂寥そのものであつた。

案内されて視察したのは、鉛室、電解工場、汽罐室、事務所等であつた。

工場の照明は、常時に於て二十Wより五百Wに至る五種の電燈約二千個と、約二百個の屋外燈を以て夜間作業に従事するのである。

演習参加の管制は、警戒警報と共に屋外燈は變電所内に於て、一時に消燈される様に裝置され、屋内燈は單相變壓器に切り替へ、タップを調整して、電壓を減じ光源を常時の約四分ノ一に減光するのである。而して直接反射の惧ある側窓には、黒布の隱蔽が設けられる。而して

空襲警報の來るや、別に動力線二二〇Vによつて配線された殘置燈に切り替へられ、變電所内に於て、一瞬に消燈されるのである。

即ち、非常管制時に於ては、二千に近き各種の電燈は、一切消燈されて、是れに換ふるに約二〇〇燈の殘置燈を以てし、是等の殘置燈の光力は二〇Wにして、所在の必要に應じて、黒布を以て遮光し、或は黒色管制燈を使用して管制を嚴にし、其目的を達するのであ

る。

必要なる場内巡視は、手提燈によりてゲージ、メートルの檢視を爲して居る。敏速なる切替と、警戒、非常、兩管制の區別を明瞭にし、通風換氣は常時と變りなく、恐らく能率の低下、製品の品質等も、絶對無影響だと説明され、成る程と思はれた。

構内の整頓も行届き、少しの空地にも工場としては往々有り勝ちの、雜物の放置もなく掃除が極めて行届いて居つた。

慾を云へば、廊下其他交通上最も重要なる個所に、管制燈が若干必要と思はれた。

特に力を入れられたのは、變電所の隠蔽であるさうだが、外部からは少しも漏光なく時間の關係上内部の視察をやめたのは残念であつた。

この工場を守る防護班員は、晝間七十四名、夜間五十四名であるが、組織及配置等は省略する。

三十六、共和レザー工場（西淀川區高見町一）

敷地四千坪を擁する工場だが、演習参加の気分は見へない。守衛を加へて五名の宿直が當番をして居た。社宅寄宿舎が構内にあるから、直ちに召集されるさうだが、どんな構成を持つて居るか當番は説明が出来なかつた。以て工場長の心構へが察し得られやう。北支事變の影響で商内閑散である爲、夜業を中止して居ると正直に辯明されるが、要するに防空演習参加の精神が不徹底である。事務所と社宅だけが黒布やレザーにて隠蔽され、夜間は簡単に休止状態であつた。

三十七、日東アルミニウム工場（西淀川區野里町）

夜間作業は常時でも行はないが、將來の夜間操業必至の場合を考へて、工場は全部隠蔽と遮光によつて燈火の管制が行届いて居つた。

班員四十五名を以て、防護を擔任し、夜間は警備十名と寄宿舎在員五六名の臨時召集に

よつて、災害突発の場合に應ずる手筈であつた。主力を防火班に注ぎ、甲乙二班の交替制である。演習氣分相當と認められた。

三十八、關西漂白工場（西淀川區野里町）

麥稈眞田の漂白作業である爲、夏分は連続して休業、八月頃より再開始に着手するのが通常であるが、本年は防空演習直前より操業開始の準備をなし演習に参加したとの話であつた。

敷地七百坪に四百五十坪の建物を有し、大部分は工場とその附屬建物で、従業員もまだ三十名位、作業も未だ閑散の様子だが、三班制に編成替となし、十五名に分擔させ、事務所は隠蔽遮光を行つて居た。

三十九、前川齒切工場（西淀川區野里町）

ガラス天井の工場で、燈火管制には餘程骨が折れる建物である。各光源を隠蔽遮光して

漸くにして管制の目的を達せんと考へられて居るが、能率の低下は免れ得ないであらう。隣接して鐵骨の新工場を建築中であるが、防空施設を考へて、ガラス天井は成るべく變更して貰ひたい。分團長以下三十九名の班員を以て六班制であるが、當工場としては、編成簡單化の必要があらうと思はれた。新工場落成後の明年度の定期大演習に、最も効果的な施設を案出されたいものである。

四十、三隆珪瑯工場（西淀川區野里町）

三班二十一名の班員を以て最少限度の防護擔任をなして居る。焼付窯、釉藥窯があり、晝夜操業ではあるが、隠蔽は漏光防止の程度で、研究的工作は見當らない、従つて隠蔽を嚴密にすれば温度の高昇、能率の低下は免れない。空地も少く連も規律ある演習は望まれないと思つた。何物を犠牲にしても、燈火の管制と防火の爲にする内部整備と、而して従業員精神作興の程度に止まるの外はあるまいと考へられた。

四十一、塩野義製薬工場（西淀川区海老江下三）

當番防護班員七名を單位として、防毒、消火、警備に當らしめ、四班交替にて分團長指揮下に全體の防護に任じ、別に各作業場の主任が責任者として各現場の警備に當り、避難も亦同様の組織である。

夜業のない工場だが、萬一の場合を豫想して、三階建百五坪の東北の一棟を完全に隠蔽して居る由だが、折柄應召軍人の見送にて相當混雜して居たから、内部視察を差控へて引上げた。演習開始以來、工場監督官、建築課員が現場を視察されたそうで、福島警察の工場主任が、主として指導されたそうである。

四十二、島田硝子工場（西淀川区海老江下三）

總坪四千六百建坪二千七百の晝夜業工場で、約一千名の従業員の六割は男子である。高い建物、窯等は、空襲の目標になり易い、特別防護團も組織されてあるが、規律ある訓練

は、仕事の性質上望み難いのであるまいか。少しく古くなると、煉瓦のすき間から迸出る焰に對する處置に付て説明を求めて居つた折しも、島田社長が來て、ドラフトの関係だから、窯が古くとも焰のもれぬ様十分の調整が出来ると説明された。素人には製品との関係は分らないが、彼是と手段を講ずるよりも此方が一時しのぎとして輕便なものであらう。建物や事務所等にも相當隠蔽と遮光とで管制はされてあるが、窯を中心として、バラツク式のカヴァの様な斯種の工場では、常時は換氣通風によりて職場温度の高昇を防いで居る爲め、隠蔽等の防空施設は痛事であらう。送風機も据付けてあるが、窯場は確かに暑かつた、高温に馴らされた従業員は或は左程でないかも知れないが、四邊の隠蔽そのものが感じの上からも暑苦しさを増すであらう。

永久的施設は何もない、府の建築課員が演習中一、二回現場視察をしたさうである。

四十三、野里工作所（西淀川区野里町）

機械鑄物の工場であつた。工作、警備、聯絡、配給、救護、避難、管制の諸班に分たれ、普通の個所には普通の隠蔽が施されてあるが、特殊の場所の特別隠蔽は、何等考案されてない、即ちキユボラーは其儘であつて、作業の振りかへで夜間の放光を慎んで居る程度である。先方からはそれが處置に付いて名案がないかと却つて逆襲される位で、金さへ厭はねばと答ふるの外はない。輕便有効の装置は、既に二三年來各所で研究されて居るが、一般に推奨するに足るものがない。完全な恒久的隠蔽装置に巨費を投するならば、爐を増設して晝間のみ爐の作業を限つた方が工場として有効であり、時節柄生産擴充にも役立つ事になる。本年は某工場の考案も不成功であつた。是も次年度への持越問題の一つである。

四十四、大日本製藥工場 (西淀川區海老江中二)

本年度は演習氣分を避けて、直ちに實戰に應じ得らるゝ様に施設を備へて、防護演習に参加したさうで、班の編成も警備救護の二班に止め、警備工作防毒救護避難收容等は、係

として兩班長に従屬させ、責任班員晝間は六十名、夜間は十四名を以て應じてゐる。

燈火管制は殘業三時間以内の工場は除外し、三時間以上殘業工場中、第三乳酸工場、アルコール工場、食鹽工場、及事務室は黒布を以て全隠蔽を行ひ、

第四新製劑室(第二工場二階)、エフエドリン、ブドウ糖、フェバセニン汽罐室に於ては、全部管制電球を使用し、照明不足の補ひに手提電燈を用ゐて、作業要所の監視に勉めて、生産繼續に努力してゐる。

こゝも非常應召者多く、是れが見送りに混雜せると、軍需藥の急注文に工場も事務も演習氣分以上であつたのと、福島署の工場主任が度々巡視し指導されたと聞いたので内部視察を行はなかつた。

四十五、丸松メリヤス工場 (西淀川區海老江中四)

一昨年度の演習に於てメリヤス工場中、試みに西松、山發の兩社と丸松工場との演習施設

を比較した場合、西松工場は最も熱心で、施設並に豫行演習等も第一であり、次は山發工場而して丸松工場は最も見劣りがした。夫れ故昨年は特に豫行演習の際も注意した位であった。然るに本年度の丸松の施設の進歩は著しきものがある。今年を受持でなかつた爲、西松、山發兩工場は視察出来なかつたが、昨年度の兩社の施設と、本年度の丸松工場とを比較すると、山發工場より確かに進んで居る。例へば工場に於ける鋸屋根採光窓の隠蔽の如き黒布を以て内部より完全になされ、しかも短時間を以て簡単に開閉自由である。此點に於ては大紡績會社でも及ばぬ所があることを考へたとき、丸松工場主の心氣一轉を認めざるを得ない。隠蔽施設に自信を持たない工場は説明振で感得され得るが、本年度のこの工場の自信は、説明にも溢れて居た。

防護班の動作や意氣は、西松工場にも敢て劣らなかつたのだが、如何にせん施設の伴はぬ爲め、著しく見劣りがしたのが、本年度は立派に解消された。

筆者は、工場其他の内部施設を一通り實見して、明年度大演習の準備完成を希望して引

揚げた。

結 言

繁錯冗長を厭はず以上實見四十五分團の演習狀況を、修飾せず有りの儘を記述した。是によりて感得されるものは、規模の大小、資本の多寡に拘らず、眞に理解して参加せるもの、已むを得ず外觀を整へて居るもの、全然時局を理解せざるもの等が、自ら區別さるゝであらう。我等は彌次馬的に奔馳するのではなく、國防の一端として努力して居るのである。緒言にも述べた通り本年度は、恰も北支事變の突發に際し、民心緊張せる折柄、管下動員の發令により、實戰氣分を濃厚ならしむる處があつたことは、演習参加に一段の熱を加へた。

併しながら、工場防護團の埒を越へて一般を観察した場合、防空演習に對する認識は、工場分團が最も深く、且訓練統制施設等の總平均に於ても、亦一日の長ある事は何人も肯んずる處と信ずる。是れ偏に各分團及支部關係各位の不斷の努力と熱誠との賜である。

統監の演習講評に於ても「工場防護分團は益々其體制を強化し熱心演習に従ひ管制下の作業繼續に、又工場防護に努力し、著しく成績を向上せられつゝあることは、産業都市大阪の防空上洵に意を強くするものがあります」と評されて居ることは、勞苦に酬ひる所あると云はねばならぬ。

今や東亞の戰雲愈密に、所謂非常時の中心は、全國民の頭上に迫らんとして居る。皇軍の威力は、到底國土に空襲を被むる様な事は、恐らく絶無ではあらうが、明年度の近畿大演習の計劃は、更に一層の嚴肅緊密を加ふるであらうと想像される。軍民一致の精神に於て、益本團の特色發揮に協力されん事を切望する。

以上の記述は匆忙奔命裡に於ける所感なるが故に、時として觀察の誤、解釋の不備等あつた場合には、支部懇談會等の機會に於て、御指示あらん事を懇望する次第であります。

附記、訪問工場中、日本帽子、明正紡織、帝國製紙、其他二三工場に関する記述は、紙面の都合上省略しましたことは、不惡御諒承を願ひます。

(終)

昭和十
二年度

工場防護團防空演習實施に関する所見

指 導 將 校

一、燈火管制に就て

燈火管制の施設には工夫を加へ相當の經費を充當する等前年に比し擴充強化の跡を認む然れ共其管制の程度に關し明確なる憑據を缺き警戒管制と非常管制との區別明瞭ならざる工場あり。

其他管制用材料として單に藁、席等一時的材料を用ひ爲めに警戒管制より非常管制に、非常管制より警戒管制への轉移困難にして恰も常時、非常管制下に作業しあるが如き状態にあるものあり、宜しく恒久的施設により工場内の通風換氣に注意し、作業能率を低下せしめざることく燈火管制の施設を完備すること緊要なり。

二、應急防護作業の實施に就て

爆彈（燒夷彈、瓦斯彈を含む）の落下當初に於ける應急作業即ち防護作業班以外の従業員（事務員、家族等を含む）の應急處置は不充分なり今後一層の訓練を必要とす。

三、防護各機關の合理的活動に就て

晝間多數の作業班を編成し之を無意味に待機せしむる工場あり、又夜間作業を實施せざる工場にして夜十時乃至十二時頃迄は晝間同様多人數を控へしめ、後半夜は全く防護陣を有せざる工場あり、夜間に在りても必要最少限の人員を以て交代制の下に、服務せしむる等合理的編成をなし長時間堪へ得る如くするを要す。

四、防護團各作業班の訓練に就て

各作業班の訓練は前年に比し大に進歩の跡を認む。

五、工場に於ける演習計畫及指導に就て

演習の計畫及指導共に熱心なるも尙作業班の専門的の演練に偏し一般従業員の應急的處置の訓練に着意しあるもの尠きは遺憾なり。

又同時同所に各種の災害重複して發生したる場合或は二、三箇所と同時に災害突發せし場合に應ずる一般従業員の動作、並に作業班の區署動作等に付一層の訓練を必要とす。

其他工場幹部が従業員訓練のため行ふ狀況の現示は一層實戰的なる如く工夫を要するものあり、例へば豫め演習の科目、場所、時刻等を告知しておくが如き模型的演習を避け、又同時數種の災害を現はす如くする等實際的ならしむるを必要とす。

六、工場幹部の熱意に就て

社長、取締役等の上級幹部が自ら分團長に任じ進んで指揮、指導に當るの傾向を見るに至れるは誠に慶賀に堪へざる所なり將來一層此氣風の助長せむことを切望す。（終）

昭和十
二年度

工場防護團防空演習實施所見

第四師團司令部囑託
工場防護團本部常務幹事

鳥野大佐

一、防空演習準備に就て

イ、本部主催支部、分團懇談會實施

前年度防空演習實施の跡に鑑み意見の交換並に本年度演習の主要實施項目に關する打合をなし、特に本年度演習の主要着眼點に就て師團防空主任參謀官本中佐の講話を煩はし以て演習實施の憑據を與へ施設の擴充強化と相俟て防護訓練の完璧を要望したり。

本懇談會は支部毎に開催し、昭和十一年十一月以降本年六月に亘る間に三〇支部（本部直屬を含む）を了り所期の目的を達したりと信す。

ロ、豫行演習

本年度豫行演習を左の通り實施す。

七月十二日 防空器材の點檢整備。

自七月十五日
至同廿五日 一般豫行演習實施。

特に大阪府統監の指定による豫行演習實施工場は三三とす。

一般豫行演習實施期間各工場は夫々自ら豫行演習を實施することを要望したるに大部の工場は熱心進んで演習訓練を行ひ（最少限一回）成果を擧げたるも一部工場に在りては、今尙熱意に缺け申譯的の演練を行ふに過ぎざる工場あるは遺憾とする所なり、又統監指定の豫行演習工場は何れも眞摯眞面目に演習を實施せられ、其効果大なるものありしを認む。

指定豫行演習に就て一言す。本豫行演習を指定せられたる工場中往々誤解され工場の狹隘、建物の關係上演習困難なる理由を以て指定工場たることの取消を提出さるゝ向あり、

即ち指定豫行演習となれば巧妙複雑にして華々しき演習を行はざるべからざる如く曲解さるゝ結果なりと思考す、指定豫行演習は模範演習工場に非ず、其工場の現状が如何なる状態に在りと雖も其に關係なく實戦を顧慮し其工場の現状に即する如く演習訓練することを指定せらるゝものにして指導者（本部其他）と十分協議し、其演習科目等を定め實際的有意義に實施すれば可なり。

ハ、大阪工廠の演習見學に就て

本年度は特に大阪工廠の厚意に依り燈火管制施設の一部並に防火防毒の演習を行ひ工場防護團關係者に見學せしめられたるは工場防護團として深く感謝する所にして、之により從來往々不審とせられたる防毒、防火の訓練に一大光明を與へられたることを信す。

二、本演習の實施に就て

イ、視察工場左の如し

第一日 朝日橋支部内工場 師團長代理吉住少將閣下に隨行す。

第二日 泉尾支部内工場 師團司令部附河村少將閣下に隨行す。

第三日 堺支部内工場

第四日 第五日 大阪市内工場

ロ、所 見

1、本年度防空演習主要實施項目の一たる燈火管制の施設は全般的に昨年に比し擴充強化されあるを認むるも尙、警戒管制の施設と非常管制の施設との區別を明にして長期に亘る警戒管制下の作業能率低下防止に適應せざるべしと思考せらるゝもの尠からず。

2、防護訓練は昨年に比し一段の進歩向上を認むるも、本年度主要訓練の一項目たる一般従業員の應急動作の演練は遺憾ながら充分ならざる工場多し。

視察したる大部の工場の演習は各作業班の専門的動作に偏し工場内の一部に突發せる災害に對し附近従業員の應急處置を計畫實施したる工場は稀有なり。

尙將來訓練を重ねるに従ひ演習の構成に創意工夫を凝らし、困難なる情況に應ずる處置動作を演練すること大切なり例へば、

同時數ヶ所に災害を突發せしめ重要な度に應じ如何に作業班を區署するか、或は同時同所に焼夷彈、瓦斯彈の被害を想定し防毒面を装着して消火に當る等實際に起り得べき情況を作爲するが如し。

3、防空演習實施に方り工場主初め上級幹部の意氣込は逐年向上し、自ら指揮指導に當る氣風の助長したるは誠に慶祝に堪へざる所なり。

本稿記述中飛報あり『我海軍〇〇空襲部隊は猛烈なる惡天候を冒し支那海の怒濤數千キロを往復暴風雨中の南昌を空襲す』又『……………敵の首都南京を空襲す……………』と、訓練精到にして攻撃精神旺盛なる空軍は殊更に惡天候を冒し困難を排して空襲を決行し敵國民の意表に出づるの策を採ること必然なり。

重ねて記す——我は既に彼の首都を空襲せり。

(以上)

昭和十二年九月十四日印刷納本
昭和十二年九月二十日發行

【非賣品】

編輯兼 工場防護團本部
大阪市南區末吉橋通二丁目一番地

代表者 島野巖太

印刷者 木下正人
大阪市西淀川區海老江上二ノ六

印刷所 木下印刷所
大阪市南區末吉橋通二丁目一番地

發行所 工場防護團本部

終